

福知山地方本部

小委員会でも項目発言 小森委員長に

【第1小委員会(組織・財政)】



発言する幸賀委員

○青年女性委員会

福知山地方本部では、青年女性委員会の構成員が190名となり、年々減少傾向にある。一方で、組織拡大の取り組みにより、2026年度は新卒18名、社会人採用3名がJR西労組へ加入し、仲間づくりでは一定の成果を上げている。しかし近年は社会人採用者が増加しており、年齢要件のある現在の青女活動では参加しづらい、あるいは参加できない組合員が増えていく。その結果、組合との接点づくりや仲間づくり、人材育成の機会が十分に提供できず、将来の役員育成や組織運

○女性役員の育成

女性社員の本格採用から約20年が経過し、結婚・出産・育児・介護などライフステージの変化を経験しながら働く女性組合員が増えている。女性特有の悩みには男性役員へ相談しにくいものもあり、そうした声を組織運営へ反映するためにも女性役員の育成は重要である。しかし現状では女性役員の確保・育成は十分とは言えない。育成に向けた支援策や助

○地方財政・地方交付金

持続可能な組織運営に向けては、組合員数減少を見据えた財政運営が重要だ。今後の収支見通しや財政シミュレーションを組合員と共有し、将来を見据えた議論を進める必要がある。また、地方本部や支部・分会が地域に根差した活動を継続・発展させるためには、安定した財源確保が欠かせない。限られた財源を有効に活用し、組織の持続性と現場活動の充実を両立できる財政運営に向けた議論を期待する。

【第2小委員会(業務・ワーキングイノベーション)】

○雪害の振り返り

今年1月から2月にかけて福知山エリアは度重なる寒波と大雪に見舞われ、列車の運休・遅延や倒竹木対応など、安全・安定輸送の確保に向けて多くの組合員が昼夜を問わず対応した。地方本部では会社との振り返りを実施し、除雪体制や要員確保、異常時の指揮命令系統、現場負担などの課題を整理した。今後は、現地の状況や社員の意見を適切に反映した意思決定の検証を行うとともに、積雪量や降雪予測を踏まえた運転継続・休止の判断基準を明確化したガイドラインを整備するよう求める。また、列車運行全体についても現地の危険判断を最大限尊重し、安全最優先で運転休止を判断できる仕組みづくりを要請する。



発言する船田委員

○介護育児関係

育児・介護制度の改善により両立支援は前進しているものの、短日勤務や泊まり勤務制限の対象を義務教育修了まで拡大することを望む声は依然として強く、引き続き制度拡充をお願いする。地方では就業制限のある組合員が働ける職場や担務が限られ、希望しても選択でき

ない、あるいは遠距離通勤を余儀なくされるケースがある。育児や介護を理由に離職や休職を選ばざるを得ない状況を防ぐため、就業制限者に対応した担務を柔軟に設定できる仕組みの構築を求める

○ローカルエリアの問題

福知山エリアでは、支社機能の廃止や現業機関の集約が進められ、その過程で、家族を伴って転居を選択した組合員や、やむなく会社を去る決断をした組合員もいる。

また、地元に残って働き続けたいという思いを持ちながらも、L・M層のポストが限られていることから、ステップアップを目指すことを躊躇している組合員も少なくない。

少子高齢化に伴う労働人口の減少により、人材の確保が困難な状況にあることは理解している。しかし、そのような時代だからこそ、地元根差して働きたい、そして地域に貢献しながら自身の成長やステップアップも目指したいという意欲を持った組合員が、将来に希望を持って働き続けられる環境づくりが必要である。

地元で働き続けながらキャリア形成を図ることができ、仕組みや、目指すことのできるポスト・活躍の場の創出について、引き続き検討を進めていただくようお願いする。



第2小委員長に選出された小森委員



授賞式の様子(一部) 杉取部長(左)と笠浪部長(右)

機関紙コンクール
文化文芸コンクール
受賞続出!!



機関紙コンクール
最優秀賞

福知山地方本部

分会の部

「努力賞」

福知山列車区分会

「特別賞」

豊岡駅分会

文化文芸コンクール

書道部門

「優秀賞」

A B C運動の浸透

ロゴ部門

「優秀賞」

井上 直美

「努力賞」

井上 義英

「優秀賞」

笠波 斤吾